

昭和13年11月1日（火）

久子朝早く、余もお影で、早く出発出来たり。拾銭にて三つの菓子、余が久子より貰ひしを局員に持行く為、食はずに土産にす。途中一ヶ落とす。夫れでも一つ宛て頒配出来たり。新聞を購ひ定時発車。局にて例の土産一ヶづつ与ふ。六時販るさ電話。分室に立寄れば由井さん居る。小使い某、余が飯塚に転勤の際、手伝いに来たりたる手当を主事に分配依頼したるを、遂に同氏より貰はざりしとて、如何にも不平相なり。奥畑氏の所為と感じたり。由井氏に例の指輪二ヶ、松本さんと分けて呉れと申して。販りしに恰度、巖が山に茸を採りに行き、今販りし計りなりとて、一緒に夕食を済ます。昌江よりの土産品を遣る。巖酔うて居る。風呂沸き、悦子和博及び信子を入れ、智子を愛子に任す。巖、既に眠る。十時過ぎまで、愛子と佐世保の話をする。

昭和13年11月2日（水）

前夜寒くて足暖まらず、安眠し得ず。朝、合同銀行に廻り、国債種類交換方請求雛形写し取り、之を永江氏に清書しやる。余の仕事全部終了。午後一時、巖、味噌持来る。五十銭注文せしも、永江氏切手請求葉書、巖に持来らしむ。午後一時二十分出発、五時徒歩販宅。此夜、澄子懐爐を余に渡す。之を床に入れ腹に当てたるに、安眠し得たり。九時過ぎより寝る。

昭和13年11月3日（木）

晴れ、幾分曇り。道子澄子レコードコンサートに、招待券を久子より得たるを以て行き、余留守居す。申又（さるまた）洗濯す。遂に乾燥せぬうち陽没す。此日、松原

氏より書面（三十一日発）を再吟味す。駒次氏より四百三十円入金。内百八拾参円七拾参銭（武田の訴訟費用印紙代執達吏費代）、参拾円弁護費用其他、計貳百拾参円七拾参銭、残金貳百拾六円貳拾七銭とあり。以上数字を羅列したるのみにて、内容不明なり。残金は昌江に渡したることになり居れり。

昭和13年11月4日（金）

晴れ。天気予報は曇り、後雨模様。午前十時簗島局にて年金受取。バスにて南新町、電車にて駅前下車。博多局前まで乗り、夫れより徒歩。博多ホテルに昨夕刻、長崎より到着のJU?一行の宿泊所を見て、上西町ナショナルラジオ支店に寄り、球が満足に密着せぬことを話して調査を要求す。明日、序であるから立寄ると申呉れたり。次いで物産陳列所に至り、満蒙展覧会を観る。爰に正午を報ずるに会ふ。夫れより松屋にて糊五銭、便箋二冊二十銭求め、市場にて鰯二尾、28にて求め販る。JU一行、松尾蔵工場視察に見えると云ふので、多数歓迎者詰め掛け居る。二時三十分の予定が二時五十分に至り、自動車にて来る。道子行き澄子居残る。古本屋来たり、待居る。岩波文庫拾冊、余売払う。三分の一位の相場らし。余の先日求めし貞女と千代と連月を、60銭にて求めんと云ふ。60銭にて購入せしものなり。夕飯は鰯飯。此日晴天、予報に反す。柳原先生より明日、例会出席方を通告あり。今日は久子七時販着。割合に暖かなり。懐爐持来る。陳列所内福岡局出張所にて、記念スタンプ押印。局員の一名は余に挨拶し絵葉書呉る。

昭和13年11月5日（土）

朝より手紙書き四通認む。中尾、藤井、松原、西牟田、午後四時まで費やす。髯剃り、午後七時より真の郷例会に出席の為、出発。七時四十五分着。柳原先生も凱旋兵士の歓迎に臨まれ、余の電車に乗って居られしを、余も先生も知らざりし。計十六名の集会なり。先生より、左傾した若者の指導に当たった某氏の指導原理を話さる。午後十時十分閉会。柿二つ貰って十一時帰宅。湯煖房入れあり。気持ち良く休み得たり。

昭和13年11月6日（日）

午前中葉書五枚認め、記念印押捺方依頼す。午後二時山崎氏宅を訪ふて徒歩。大学病院小野寺内科、二階三号の一等室に至り、氏に面会す。桑原氏托鉢し居らる。一時間余咄し、四時過ぎ、誰か見舞いに来たりしを機とし辞去す。電車二区、玉屋にてアルミ湯沸かし50銭にて求め、バス三区、五時半帰宅。六時夕食。巖にシャツ毛の上等を土産にすることとす。九時半寢床。久子休暇外出、九時頃飯る。

昭和13年11月7日（月）

朝、麵包を作り呉る。七時半出発、十一時半着。五時帰宅。中津新聞記者、小野某来局。電話分室完局式新聞掲載に関し、広告料請求に来る。飯りに豊後町局長に面接、一円五十づつ出金することにす。余は一円を主張したるものとす。風呂沸き赤坊を入浴せしむ。ラジオは五日店員来局。真空缶の損傷と認めらるる由なるも、試験機具の持合わせなき為、推定に不過、真空缶は後より送付する旨咄しありと云ふ。此の日晴天。大阪松坂屋より

注文の書籍届きあり。

昭和13年11月8日（火）

快晴。出勤九時となり、巖は八時に出掛け、余は八時半に出発。はぶ茶を原田商店に求む。上海輸入止まり売居らずと。本町の葉草屋より、40銭にて一袋求め出勤。十分前、是永氏居らず間もなく来局。指輪一ヶ島子に贈るべく、昨夜愛子に保管を托す。五時十五分帰宅。巖、福日新聞を取ることにしたる模様、本日より配達を受く。夜寒く寝巻を着る。巖、長火鉢を運ぶ。

昭和13年11月9日（水）

雲点々かかるも概して快晴。連日の好晴に、稲上げ大分片付きたり。此の分にて猶四五日晴天続けば、農家の収穫は豊作を予想さる。はぶ茶三回頂く。便所二度通ふ。家の中は冷氣強し。此の朝、巖福日を局に持行けと云ふ。読む暇がないとて持来たさざりし。今日は割合仕事がなく、新聞を読み得る時間に恵まれたるを想ふ。午後五時帰宅。三畳の部屋は暖かく、双児を寝かせて流汗を見たりと。

昭和13年11月10日（木）

昨夜九時頃降雨。時々降り出したるも、其の量少なし。今朝に至り其の気配だになし。九時十分臨局、今日は福日を持参、暇に任せて読む。曇り後霽れ。中尾氏より来翰。此の朝は温度上昇。午後より幾分冷氣を覚ゆ。午後五時帰宅、新聞を見る。八時柿を持出し馳走するも、余欲せず、巖のみ食ふ。

昭和13年11月11日（金）

曇り。夕方降り初めたるも、間もなく歇む。寒感珍しく強し、火鉢を出し暖を採る。中津新聞より催促に来る。昨栄町局長来局に付き、相談もしたるが、1,500出金することとなれる旨咄す。昨日欄に洩らしたるが麻生局長も臨局。四時半まで居り、永江氏より尺八を借りて販る。此日も福日新聞持参、常務なきまま新聞を見、先日求めし釈氏凡人語録を見る。午後五時帰宅。夕飯後入浴。赤子を入れ泣くまでつかる、流汗淋漓。九時半再び入浴、寝る。此日より大火鉢に火を入れ、余の座敷に置く。座蒲団も出来たり。雨甚だし。

昭和13年11月12日（土）

寒さ強し。降雨。出発時降らず、途中にて降る。磯村君と遭ふ、和傘を貸し呉る。幸に濡るるを免る。曇（みぞれ）に变じ寒感猛し。永江氏切手請求。福日、汽車中にて読む様とて持来したるも、局にて読終わり、返戻方頼む。午後一時、はぶ茶を飲み出発。此の時、雨歇む。駅に至り再び降雪。三分遅れ三十分発車。定時着、電車バスを利用す。五時に五分前到着、間もなく夕食。湯暖房を作り呉る。思ひ出した様に雨降る。夜寒さ強し、湯暖房で助かる。

昭和13年11月13日（日）

前日に反し、割合に温度上昇。午後外出。柳橋にてはぶ草、四匁十五銭と云ふ一袋六十銭と云ふを、五十銭にて呉る。更に隣家より500匁拾銭、650匁拾銭及び600匁拾銭とあり。上等のもの十二銭分求めたり。是れは甘藷の代わりなり。夕食に求め来たりし甘藷を、蒸して貰ふ。

夜澄子が、久子の誘惑に乗せらるるを口説く。罷めさせたきも、本人も罷めたくないらしい。十二月ボーナス時まで待つことにして居るらし。午後九時半寢床。割合暖かなり。暖房持来る。

昭和13年11月14日（月）

昨日程度の気温なり。道澄外出。午後二時近く、余外出。山崎氏を訪ふ、来客あり。余至るや間もなく辞去さる。約四十分咄す。九日退院されたる由。桑原氏の断食は絶対不可と宣告さる。癌でないと分かり、手術を用いず永く治療し、全治を庶幾すべしとあり。次いで徒歩。上西町松下電気出張所に至り、UY24Bを持来たり、代用品展覧会場に赴きたり。時に四時、全部観覧するに一時以上を要せり。郵便局に至り、記念スタンプ押捺を依頼す。松永君来たり挨拶す。電車一区、新柳町より徒歩、飯宅。夕食事中、余も馳走に与（あずか）る。

昭和13年11月15日（火）

股火の為か少々風邪気味。午後二時松屋に行き、池田の認印30、焙爐（ほいろ）34、杓子10を求め、三時半帰る。晴れたり曇ったりの天候。ホイロは黒胡麻8を炒めて、例の味噌調製のものなり。

昭和13年11月16日（水）

朝の間快晴。道子等外出。禪洗濯す。一時過ぎ降雨。甚だしからざるも、三時過ぎまで霽れず。此の間、手紙書く。中尾氏杉並区に移転の旨、通知あり。駅前局員に各葉書を、何れも記念日付印押捺方、依頼す。夜引張りを着用。明朝の仕度をなす。午後九時半、床の中にて

新聞を見、十時近くまでラジオを聴き就眠。子供等風呂に行きたる様なり。四五日前松屋に行きし折りは、アルマイト湯沸かし1、20、今回1、40、湯暖房も曩に80、今回1、00、正札の付替えとなり何れも高価になり居る。畢竟、犠牲品を安くし他を吊上ぐるの策と認めたり。湯タンポの如きは、新柳町の市場に於いて、85銭にて売り居るに比し、余り懸隔あり。

昭和13年11月17日（木）

朝六時出発を前に降雨。幾度か出掛けんとしたるも果たさず。時々歇み、復た降る。七時頃より、漸く落付く。天気予報は晴天とあり。此の朝、遂に行事に不参加。午後は再び黒雲瀾（わた）り降雨。一寸外出を希望するも出足を鈍らす。午後七時開会。六時半出発、ポツポツ降雨。和傘を持行くも下駄穿きにて、途中、処々泥濘に悩むも遂に降らざりし。柳原先生見えず。星野先生も会合数ヶ所にて、遂に閉会迄顔を見せられざりし。集まる者僅かに五名、桑原氏の御咄あり。此日は少数なりしも、栗原某と云ふ新入者あり。山崎氏の光縁により来会さる。桑原氏の言に依れば、山崎氏は癌なることは明瞭とあり。意外に驚きたり。十時半閉会。十一時二十分寢床。

昭和13年11月18日（金）

昨夜は暖かなりしも、本朝快晴。毛布等乾燥す。十一時道子等外出。柳町市場行くと云ふ触れ出しなりしも、遅くなると云ふ意味に思惑あり。終日晴空、四時過ぎ乾し物蔵ふ。四時頃飯宅し、夕餉の仕度に忙わし。雑炊の馳走あり。夜八時、久子の友達と階下に居るを見る。

昭和13年11月19日（土）

快晴、布団乾す。零時20分頃、納税4、25箕島局に納めて、序でに博多部売出の模様を一瞥す。川端通りにて羽織紐40を求め、便箋二冊25、夫れから陶器枕70、寿通りにて求め、バス三区にて販る4、30。此日、松原氏須藤氏より来翰。須藤氏分、駅前より転送越せり。午後七時二十分頃、真の郷会に出発。八時に近く到着。一電車待居りぬ男女拾数名。松尾氏も居られ、栗原氏も見えたり。同氏は株式取引所に出て居られ、其の因縁から山崎氏と懇意になりたるものの由。宗教は元来大嫌いと言ふに、一燭園や真の郷に入信の理由を、自分ながら不可解とし居らる。山崎氏の為に、画仙紙に会員思ひ々々に書くことになり、さて即吟と云ふものは推稿も不出来、纏まり難きものと痛感せり。併し何も書かぬわけに不参、色即是空と書きぬ。十一時閉会。柿を三つ、珍しく大きなもの、会員は各一ヶ、余は食はぬのを特別に土産に頂きしものなり。販宅後濃厚の茶を嚙りし為か、容易に安眠し得ず。陶枕は相当痛し。例の歌を考へたりなどしつ、四時になりぬ。

昭和13年11月20日（日）

快晴。柳原先生へ葉書にて、左記の今様歌と共に書き連ねたり。

慕ひよる 赤児の姿 さながらに  
恵みの糧に うくる身の さとの集ひを待ちわびて  
希ふて帰へりぬ はるばると

・山崎氏の為か 謝らるるを感じあり

君よかれ さげくませたる 念じつつ  
けふの集ひの友は謝りぬ

・家に御土産を戴く母子  
家苞み 重荷負ふなり 師の君に  
恵みを歌へ 此の恵まるる身は

剃刀を磨く。澄子に理髪し貰ひ、夜夕食後髯剃る。夕方より天気壊れ初む。

昭和13年11月21日（月）

朝来雨。午前中、一時積雲を排して碧空現れ陽光を仰ぎたるも、間もなく再び、層雲に鎖され時々降雨。須藤氏より十八十九、一夜講習。姫野先生の指導にて。ガリ版印刷物配布あり。十五日附け書面、十九日到着。中津より廻付越せしものなり。此日返事発送す。松原氏より近日海軍省に行く為、上京する故、序でに福島県にも廻るとあり。余の気持は是れ以上駒次に入費をかけたくなし、書面にて済むと思うと申遣れり。

昭和13年11月22日（火）

快晴、敷き布団乾燥。道子等外出、四時頃戻る。甘藷求め来たり、芋粥を作る。静江氏より納豆届く。破換、内容露出しあり。山崎氏に見物に行くつもりなりしも駄目となりぬ。夕方より曇り、夜は再び霽れたり。毎日火鉢を給され、湯暖房で恵まるも、連日温暖。其の要なき位なり。向上を見、必要の項を書写すこととせり。

昭和13年11月23日（水）

快晴、敷き布団乾かす。ワイシャツ洗って貰ふ。午後二

時、山崎氏を訪ふ。一時間、余の持参のノートを翻して咄す。市場を通りて販宅。明出発の準備す。十時寢床。

昭和13年11月24日（木）

曇り。中津は此の朝、降雨の由。仕事堆積。中津新聞社より、例の広告料金催促し来る。明日遣ると此日断る。持合わせなかりしを以てなり。郵便物不著事件にて、本町三丁目榎本某を訪ふ。該郵便は受領せりと、昨日回答ありと云ふ。序でに本局に竹折氏を訪ふ。池田の認印違いの措置方を尋ぬ。巖葉書運搬し来たり、余の在局を知る。五拾銭局員に馳走し、余は何も食わずに帰宿。此日三円貯金即時払戻す。夜寒し。中尾氏の手紙見て寝る。容易に脚暖まらず、安眠し得ざりし。ラジオ真空缶取換え、漸く聴取し得るに至る。

昭和13年11月25日（金）

朝降雨、出勤時歇む。気温低下寒し。途中降らる、多少濡れたり。中津新聞社より請求に来る。昨払戻しの三円の内より支払を済ます。仕事に没頭す。五時販宿。

昭和13年11月26日（土）

快晴。守谷氏病気休養。是永氏為替、永江氏郵便。午後給料支払ふ。保険料道子分、第一生命に支払を済ます。福日新聞本朝出勤時まで未配達。巖、態々（わざわざ）販売所まで赴き、余の許に届け呉れたり。此の夜も寒く、足冷え安眠し得ざりし。

昭和13年11月27日（日）

九時出局。逓信局監督課技手、舛崎儀三氏、昨夜来局。

本朝更めて来る由を告げ、退局したる趣を永江氏話さる。間もなく舛崎氏見ゆ。衡器（こうき）検査官なり。二時間指導し、小包秤量自働式不具合、取換えを要する旨、申出あり。栄町局に向け出発さる。一時過ぎまで郵便受付永江氏。午後より外出、三時頃戻らる。中尾氏に手紙書き、四時半頃飯る。此日快晴、風なく日曜としては郊外散策に相当と思料。風呂沸き、余第一着に両児を入れたり。充分暖まるまで入れ、泣き出したる時を俟って上げたるが、二人目には、余流汗淋漓。是れを引上げたる時は、全く脳貧血の病状となり苦悶す。巖驚き、濡れ手拭いにて額を冷やす。後より思ひ付きたるものなるが、斯かる際は反対に頭部を暖める方、可なりと思料。三十分計りにて恢復、巖等に迷惑を掛けたり。前回にも稍に斯かる気味あり。嘔吐を催したるが、今回は多少念入りの観あり。

昭和13年11月28日（月）

九時出局。守谷氏、多少遅刻したるも出勤。夜来風強く、水道脈の扉、風に煽られはたはた音す。昨日中作成を約し、遂に中尾氏へ手紙書きに時刻移り、未了の儘飯宅せし為め、此日早速作成手配。毀損報告及び交付請求。然るに、本朝来局の筈なる舛崎氏来たらず。中島保険主事、今回、共通主事となりたりとて挨拶に臨局。上原氏後任。竹折氏、為替主事新任さる。此日午前中晴れ、午後より次第に曇る。五時飯宿。九時二十分寢床。

昭和13年11月29日（火）

午前中、時々陽が射す。一時頃驟雨。公報休み居りし間溜まりし分、全部処理を了す。守谷氏、正式に辞意を通

告し来る。結婚の為め退職する者には特典ある旨を通知し、猶其の話は一昨日、永江氏よりも非公式に承わりし旨附言す。十二月一杯にてと云ふも、一月までも可能なやにも聞こえたり。昨夜信子激しく泣く。腹痛を伴ひし如し。便通数回ありし旨、愛子より聞く。此の夜、舛崎技手臨局せし由。毀損報告類、持行きたりと。

昭和13年11月30日（水）

曇り時々晴れ、寒し。此の朝六時を過ぎ愛子起床せず。便所より販り、夏季なら体操を遣る所だが、薄着ではやれぬ故、少時綿入れを着て内伏せになりて俟つ。此の日消耗品調査も未完了の儘、販宿。